

ぬいぐるみのとしょかんおとまり会のプログラムに対する評価：
図書館や読み聞かせへの態度に及ぼす影響

鈴木佳苗*

Evaluation of a stuffed-animal sleepover program at a public library:
Its effects on the attitudes toward libraries and reading

Kanae SUZUKI

抄録

本研究の目的は、従来の方法の一部変更して開催した「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」の活動に対する評価を行い、参加した子どもたちや保護者の本や図書館とのかかわり方にどのような影響が見られるのかを検討することである。2014年7月に茨城県内の公共図書館で開催した活動には17名、2015年7月に開催した活動には14名が参加した。本研究の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」では、初日に図書館でぬいぐるみを預かり、ぬいぐるみと一緒に子どもたちが参加するおはなし会を最終日に開催した。おはなし会が終わった後、参加者全員で図書館でのぬいぐるみの様子をスライドショーでふりかえった。その後、子どもたちにぬいぐるみと、図書館での様子を撮影した写真を手渡し、ぬいぐるみが選んだ本として子どもの好みを参考に選んだ本を貸し出した。保護者を対象として質問紙調査を実施した結果、2回の実践ともに今回の活動内容は高く評価されていた。この評価の理由としては、ふりかえり（写真やスライドショー）、図書館へ来るきっかけ、家庭での読み聞かせの促進などがあげられており、今回の活動への参加が子どもたちの本や図書館とのかかわり方により影響を及ぼしていることが示唆された。

Abstract

The study aims to evaluate the contents of the stuffed-animal sleepover practice and examine its effects on attitudes towards public libraries and reading at home. Seventeen children participated in the activity in July, 2014 and fourteen children participated in July, 2015. In the activity, which was revised from the usual methods, children brought their own stuffed animals to the library and left them there on the first day. A story hour and slide show for the purpose of reflecting on how the stuffed animals spent their time at the library was conducted on the last day. Following this, the children were given books according to their interest. The books were handed to them as if their own stuffed animal had selected it along with a photo album of their stuffed animal's sleepover experience. At the end of the activity, their parents answered a questionnaire to evaluate the activities and were also asked to give reasons for their evaluation. Most of them evaluated the activity highly. Their reasons for the high evaluations were that parents reported that they were able to learn how to read picture books to their children and the photos and slide show were attractive. Others indicated that this program gave them a good opportunity to come to the library with their children and more frequently read picture books to them at home.

* 筑波大学図書館情報メディア系
Faculty of Library, Information and Media Science,
University of Tsukuba

1. 問題

1.1 「ぬいぐるみの図書館おとまり会」とは

公共図書館の新しい取組として、幼児から小学生頃までの子どもを対象とした「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」の開催が増加している（国際子ども図書館、2014）。「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」は米国で始まり、日本では2010年に兵庫県で初めて実施された。

この「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」の目的は、子どもに本や図書館に関心を持ってもらうことである。これまでの実践を概観すると、必ずしも統一的な方法で実施されていないが、次のような実施方法が多く見られる（市川、2012; Romriell, 2011; Stippich, 2012; Thompson, 2012）。まず、子どもたちはお気に入りのぬいぐるみと一緒におはなし会に参加する。その後、図書館がぬいぐるみを預かる。夜になると、図書館員は、ぬいぐるみが図書館を探検したり、本を読んだり、図書館で眠ったりする様子を写真撮影する。翌日、ぬいぐるみを迎えにきた子どもたちに写真を手渡し、ぬいぐるみが選んだ本として（図書館員が事前に選んだ）おススメの本の貸し出しを行う。

この方法では、お気に入りのぬいぐるみが選んだ本をその後読むことを通して本への関心が高まること、また、ぬいぐるみが図書館を探検したり、本を読んだりする様子を写真で見て、図書館への関心を高めること等が期待されていると考えられる。

1.2 従来の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」を変更したプログラムの概要

これまでに多く開催されてきた「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」の方法について、いくつかの点を工夫すれば、子どもの本や図書館への関心をより高めることができるのではないかと考えられる。Suzuki (2015) は、具体的には、茨城県内の公共図書館の職員と従来の「ぬいぐるみの図書館おとまり会」のプログラムの内容を検討し、次のように変更した。第1の変更点は、おはなし会を最初にぬいぐるみを預かる日にではなく、ぬいぐるみを返す日に行うことであった。従来のプログラムでは、ぬいぐるみを返す日に、ぬいぐるみが選んだ本として数冊を子どもに渡している。しかし、おはなし会をぬいぐるみを返す日に行い、このおはなし会の準備をぬいぐるみが行ったと説明することにより、おはなし会自体への関心が高まるのではないかと期待される。第2の変更点は、おはなし会をぬいぐるみを返す日に行うことにより、本を選ぶだけでなく、図書館でおはなし会の

準備をすることを含めて、ぬいぐるみが図書館にとまってさまざまな「図書館の仕事を手伝う」ことを子どもたちにより明確に伝えることであった。このような説明や、ぬいぐるみの図書館での仕事ぶりを記録した写真により、子どもたちは、本への関心だけでなく、図書館や図書館でのさまざまな仕事に対する関心が高まるのではないかと期待される。第3の変更点は、としょかんおとまり会のふりかえりの重視であった。ぬいぐるみがおはなし会の準備をしたり、図書館のカウンター業務を手伝ったりなど、図書館でどのように過ごしたのかという過程を、写真のスライドショーで子どもたち全員でふりかえることにより、本や図書館への関心がより高まることが期待される。

Suzuki (2015) は、従来の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」のプログラムから主に上述の点を変更した「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」の最終的なプログラム（以下、「Suzuki (2015) のプログラム」と表記）を紹介している（表1）。具体的には、まず、図書館がぬいぐるみを預かり、翌日、スタッフが図書館内でのぬいぐるみの様子（図書館で仕事をする様子や本を選んだりする様子）を撮影する。そして、最終日には、子どもたちがお気に入りのぬいぐるみと一緒におはなし会に参加した後、子どもたちにぬいぐるみと、図書館での様子を撮影した写真などを手渡し、ぬいぐるみの選んだ本として、それぞれの子どもの好みを参考に図書館員が選んだ本を貸し出すという構成になっている。

1.3 「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」の評価に関する課題

前述のように、全国的に「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」の開催が増加しており（国際子ども図書館、2014）、多くの図書館ではウェブ上に活動の様子を

表1 Suzuki (2015) のプログラム

日程	プログラムの内容
1日目	・子どもたち、あるいは保護者からぬいぐるみを預かる 11:00~12:00/13:00~15:00
2日目	・図書館内でぬいぐるみの仕事の様子を写真撮影する ・撮影後、3日目のおはなし会の後に渡すアルバムを作成する
3日目	・おはなし会受付 13:30~14:00 ・おはなし会 14:00~14:30 ・ぬいぐるみのおむかえ 14:30~14:45 ・ふりかえり ・ポラロイドカメラによる写真撮影 ・ぬいぐるみが選んだ2冊の本、ぬいぐるみ、ミニアルバムを渡す

紹介する写真を掲載している (e.g., 宝塚市立西図書館、2014)。しかし、「めいぐるみのとしょかんおとまり会」の活動内容自体の評価はほとんど行われていない。

これまでに、おはなし会後の子どもたちの絵本に対する反応などについては、Suzuki (2015) が1.2で述べた、従来の「めいぐるみのとしょかんおとまり会」を変更したプログラムを実施し、この活動に参加した子どもたちの保護者を対象として、めいぐるみが選んだ本を返却する際に実施した質問紙調査で検討を行っている。この調査の結果、めいぐるみと一緒にめいぐるみが選んでくれた本の読み聞かせを楽しんでいるという回答が多く見られた。また、めいぐるみが選んでくれた本がとても気に入って何度も読み聞かせをしてもらったり、本を手に取りやすくなり、子どもが再度参加したいと言っているなどの回答も見られている。

1.4 本研究の目的

このように、Suzuki (2015) の調査結果では、「めいぐるみのとしょかんおとまり会」が子どもの絵本への反応にポジティブな影響を与えていることが示唆されているが、上述のように、めいぐるみを預けてからおはなし会やふりかえりを行うまでの活動内容自体の評価は十分に行われていない。そこで、本研究では、Suzuki (2015) のプログラムに対する評価を行い、参加した子どもたちや保護者の本や図書館とのかかわり方にどのような影響が見られるのかについて検討を行った。

2. 方法

2.1 「めいぐるみのとしょかんおとまり会」の実施時期

「めいぐるみのとしょかんおとまり会」は、2014年7月の週末を含む3日間および2015年7月の週末を含む5日間に茨城県内の公共図書館で実施した。

2.2 参加者と調査対象者

2014年7月の「めいぐるみのとしょかんおとまり会」には、1歳6か月から6歳までの18名が申込をし、17名がめいぐるみを預け、16名が最終日のおはなし会に参加した (表2)。2015年7月の「めいぐるみのとしょかんおとまり会」には、3歳から6歳までの15名が申込をし、14名がめいぐるみを預け、12名が最終日のおはなし会に参加した (表3)。

最終日のおはなし会まで参加した子どもの保護者のうち、質問紙調査への回答が得られたのは、2014年の調査では6歳女児の保護者1名を除く15名 (回収率: 94%)、2015年の調査では12名 (100%) であった。ただし、2014年の調査では、4歳女児の保護者1名が当日母親の代理で出席し、一部の質問項目のみを回答していたことから、この回答を除く14名を分析対象とした。

申込者の特徴として、日頃の牛久市立中央図書館でのおはなし会にあまり参加していない子どもが多かった。2014年の申込者では、日頃のおはなし会によく来ている、あるいはときどき来ている子どもは4名であり、14名は日頃のおはなし会にはあまり来ていなかった。

表2 2014年7月の参加者

	申込をした人数		めいぐるみを預けた人数		おはなし会に参加した人数	
	男児	女児	男児	女児	男児	女児
1歳6か月	—	1	—	1	—	1
3歳	2	2	1	2	1	1
4歳	2	4	2	4	2	4
5歳	1	5	1	5	1	5
6歳	—	1	—	1	—	1

注: 「—」は申込者がいないことを表す。

表3 2015年7月の参加者

	申込をした人数		めいぐるみを預けた人数		おはなし会に参加した人数	
	男児	女児	男児	女児	男児	女児
3歳	1	5	1	5	1	5
4歳	1	2	1	2	0	2
5歳	—	4	—	3	—	2
6歳	—	2	—	2	—	2

注: 「—」は申込者がいないことを表す。

2015年の申込者では、日頃のおはなし会によく来ている子どもは1名のみであり、他の14名は日頃のおはなし会にはあまり来ていなかった。

また、2014年と2015年の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」に申込をした子どもは3名（2014年申込時に3歳女児1名、4歳女児1名、5歳女児1名）であった。この3名のうち、3歳女児1名は2回ともぬいぐるみを図書館に預けたが、最終日のおはなし会に参加できなかった。したがって、2回の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」に最後まで参加した子どもは2名であった。

2.3 調査項目

2.3.1 「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」全体に対する評価

「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」全体に対する評価について、「1：よかった」から「5：よくなかった」までの5件法で尋ねた。

2.3.2 「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」全体に対する評価の理由

2.3.1の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」全体に対する評価の理由について、自由記述形式で尋ねた。質問形式については、付録に示した。

2.3.3 おはなし会の長さの内容

「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」の最終日のおはなし会の長さについては、「1：長かった」から「5：短かった」までの5件法で尋ねた。また、おはなし会の内容については、「1：よかった」から「5：よくなかった」までの5件法で尋ねた。

2.3.4 今後の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」への参加希望

「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」が今後またあったら参加したいと思うかについて、「1：参加したい」から「5：参加したくない」までの5件法で尋ねた。

2.4 手続き

「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」は、2014年7月には表1の日程で実施した。2015年7月には、1日目のぬいぐるみのお預かり、2日目の図書館内での写真撮影は2014年と同じ日程で実施したが、その後2日間空けて最終日におはなし会、スライドショーなどのふりかえりを含むぬいぐるみの返還を行った。

写真撮影に関して、2014年と2015年度の図書館内のぬいぐるみの仕事の様子は、ほぼ同じ内容とした。主な仕事は、おはなし会の準備（書架や書庫で本を選び、打ち合わせを行うなど）、カウンターでの貸出業務、職員が通常業務を行っている部屋（図書館の一般利用者は入室できない部屋）でのパソコン業務などであった。図書館内の仕事の様子以外には、館長のぬいぐるみと子どもたちのぬいぐるみとの記念撮影の様子や、ぬいぐるみが眠る様子なども撮影した。

また、2014年と2015年のそれぞれのおはなし会の内容は、表4に示した。2014年と2015年のおはなし会の内容が異なるのは、2015年の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」のほうが2014年よりも年齢が小さい子どもの参加が多く、参加者の年齢構成に応じて変更したためである。

「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」の最終日のおはなし会とスライドショーなどの後、おはなし会に子どもと一緒に参加した保護者に質問紙調査を実施した。

3. 結果

3.1 「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」全体に対する評価

2014年7月の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」全体に対する評価については、14名の回答者のうち13名（93%）が「1：よかった」と回答していた。また、1名が「2：どちらかといえばよかった」と回答していた（表5）。

2015年7月の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」全体に対する評価については、10名（83%）が「1：よかつ

表4 おはなし会の内容

2014年のおはなし会の内容	2015年のおはなし会の内容
絵本『だいすきよ、ブルーカンガルー』 （エマ・チチェスター・クラーク／評論社）	絵本『ぎょうれつのできるパンやさん』 （ふくざわゆみこ／教育画劇）
パネルシアター『くいしんぼおばけ』	絵本『もこもこはどこ？』 （マリー・ワップ／フレーベル館）
大型絵本『くまのコールテンくん』 （ドン・フリーマン／偕成社）	紙芝居『キツネさんとまっくろくん』 （田沢梨枝子／教育画劇）

た」、1名が「2：どちらかといえばよかった」、1名が「4：どちらかといえばよくなかった」と回答していた(表5)。「4：どちらかといえばよくなかった」と回答していたのは3歳児の保護者であり、その理由として、年齢的に早かったこと、家では読み聞かせに耳を傾けるようになったが、図書館の大勢の場では前を向いて集中することができないようだったことがあげられていた。

2014年と2015年の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」に続けて参加した保護者2名のうち1名は、2回の調査ともに「1：よかった」と回答していた。もう1名の保護者は、2014年の調査では「1：よかった」と回答していたが、2015年の調査では「2：どちらかといえばよかった」と回答していた。この理由として、「とてもよかった」が、昨年のスライドのほうが充実していたように思われることをあげていた。

3.2 「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」全体に対する高評価の理由

「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」全体を高く(「1：よかった」と)評価している理由について、自由記述に含まれる節の内容を「プログラムの内容」「図書館に来るきっかけ」「子どもの成長」などの関連する内容ごとにグループにまとめ、それぞれに含まれる記述数

を集計した(表6、表7)。1名の保護者が複数の内容をあげている場合には、それぞれの内容をカウントした。

2014年7月と2015年7月の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」を高く評価した理由としては、ともにプログラムの具体的内容があげられていた。プログラムの内容としては、ふりかえり(写真やスライドショー)、ぬいぐるみが本を選んでくれるという設定、おはなし会の内容(手遊びなど)などが評価されていた。その他には、企画全体も高く評価されており、また、図書館へ来るきっかけ、家庭での読み聞かせの促進、本やぬいぐるみへの愛着の深まり、子どもの成長についての実感、読み聞かせの方法への理解の深まりなどもあげられていた。

さらに、2015年7月の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」を高く評価した理由の記述では、高く評価した直接の理由以外に、「小学生になっても参加したい」という回答も2件見られた。

「2：どちらかといえばよかった」という評価の理由としては、おはなし会が始まるまでの時間に工夫があればよかったという意見や、ぬいぐるみの図書館での様子や選んでくれた本について、個別に話してもらえるとよかったという意見などが見られた。

表5 「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」全体に対する評価

	2014年				2015年			
	1歳 6か月	3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳	6歳
「1：よかった」	1	1	5	6	5	2	1	2
「2：どちらかといえばよかった」	0	1	0	0	0	0	1	0
「3：どちらともいえない」	0	0	0	0	0	0	0	0
「4：どちらかといえばよくなかった」	0	0	0	0	1	0	0	0
「5：よくなかった」	0	0	0	0	0	0	0	0

表6 2014年7月の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」を高く評価した理由

高く評価した理由	具体的な記述例	記述数
プログラムの内容がよかった	ぬいぐるみの本を選んでくれた／おはなし会をイキイキと聞いていた／写真がかわいかった／スライドでぬいぐるみの仕事の様子が分かった、など	5 (0,0,3,2)
企画自体がよかった	夢のある企画／子どもの目線にあって考えられた企画／今までにない企画でよかった、など	4 (1,0,2,1)
本やぬいぐるみへの愛着が深まった	本への愛着が深まった／ぬいぐるみの図書館での仕事の様子を見て、今後ぬいぐるみをもっとかわいがる気がする、など	3 (0,0,1,2)
図書館に来るきっかけになった	今まで機会がなかったが、子どもを連れてくることができよかった、など	2 (0,1,0,1)
子どもの成長が実感できた	いつも一緒にいるぬいぐるみと離れて子どもが少し自立した気がする、など	2 (0,0,1,1)

注：「記述数」の括弧内は左から順に「1歳6か月」「3歳」「4歳」「5歳」の保護者の回答数を表す。

3.3 おはなし会の長さの内容

2014年7月の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」のおはなし会の長さについては、未記入の2名を除く有効回答者(12名)のうち、9名(75%)の保護者が「3:ちょうどよかった」という評価をしていた。「2:少し長かった」という評価をした保護者が2名、「4:少し短かった」という評価をした保護者が1名であった(表8)。

2014年7月の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」のおはなし会の内容については、未記入の1名を除く有効回答者(13名)のうち、10名(77%)が「1:よかった」、2名が「2:どちらかといえばよかった」、1名が「3:どちらともいえない」と回答していた(表9)。

2015年7月の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」のおはなし会の長さについては、8名(67%)の保護者が「3:ちょうどよかった」という評価をしていた。「2:少し長かった」という評価をした保護者が3名、「4:少し短かった」という評価をした保護者1名であった(表8)。

2015年7月の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」のおはなし会の内容については、8名(67%)が「1:よかった」、4名が「2:どちらかといえばよかった」と回答していた(表9)。

2014年と2015年の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」に続けて参加した保護者2名のうち1名は、2回の調査ともに、おはなし会の長さについて「3:ちょうどよかった」と回答していた。もう1名の保護者は、2

回の調査ともに「3:少し短かった」と回答していた。また、おはなし会の内容については、2014年の調査では1名が「1:よかった」と回答しており、もう1名は「2:どちらかといえばよかった」と回答していた。2015年の調査では、2名とも「2:どちらかといえばよかった」と回答していた。

3.4 今後の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」への参加希望

2014年7月の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」に参加した保護者の回答では、有効回答者(14名)のうち、11名(79%)が「1:参加したい」と回答していた。「2:どちらかといえば参加したい」という回答は1名、「3:どちらともいえない」という回答は2名であった(表10)。「3:どちらともいえない」という回答をした2名はともに5歳女兒保護者であり、そのうちの1名は回答の理由について、「すぐに小学生になるので」と欄外に記入していた。一方、2015年の調査では、5歳女兒の保護者1名が「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」全体の評価の理由の自由記述欄に「小学生になっても参加したい」と記入していた。

2015年7月の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」に参加した保護者の回答では、有効回答者(12名)のうち、11名(92%)が「1:参加したい」と回答していた。もう1名は、「2:どちらかといえば参加したい」と回答していた(表10)。

表7 2015年7月の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」を高く評価した理由

高く評価した理由	具体的な記述例	記述数
プログラムの内容がよかった	ぬいぐるみの本を選んでくれた／おはなし会の手遊びが初めての体験だった／子どもが写真を見て喜んでくれた／スライドショーでぬいぐるみが図書館でどのように過ごしたかが分かった、など	8 (5,0,2,1)
本を読むきっかけになった	本をもっと読む／読み聞かせをするきっかけになった	2 (1,0,1,0)
子どもの成長が実感できた	子どもなりに図書館の楽しみ方を見つけた、など	2 (2,0,0,0)
その他	おはなし会に参加して、子どもの読み聞かせの参考になった、ぬいぐるみへの愛着が深まった、など	2 (0,1,0,1)

注:「記述数」の括弧内は左から順に「3歳」「4歳」「5歳」「6歳」の保護者の回答数を表す。

表8 おはなし会の長さについての評価

	2014年				2015年			
	1歳 6か月	3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳	6歳
「1:長かった」	0	0	0	0	0	0	0	0
「2:少し長かった」	0	1	0	1	2	1	0	0
「3:ちょうどよかった」	1	1	3	4	4	1	1	2
「4:少し短かった」	0	0	1	0	0	0	1	0
「5:短かった」	0	0	0	0	0	0	0	0

表9 おはなし会の内容についての評価

	2014年				2015年			
	1歳 6か月	3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳	6歳
「1:よかった」	1	0	5	4	4	2	1	1
「2:どちらかといえばよかった」	0	1	0	1	2	0	1	1
「3:どちらともいえない」	0	1	0	0	0	0	0	0
「4:どちらかといえばよくなかった」	0	0	0	0	0	0	0	0
「5:よくなかった」	0	0	0	0	0	0	0	0

表10 今後の「めいぐるみのとしょかんおとまり会」への参加希望

	2014年				2015年			
	1歳 6か月	3歳	4歳	5歳	3歳	4歳	5歳	6歳
「1:参加したい」	1	1	5	4	5	2	2	2
「2:どちらかといえば参加したい」	0	1	0	0	1	0	0	0
「3:どちらともいえない」	0	0	0	2	0	0	0	0
「4:どちらかといえば参加したくない」	0	0	0	0	0	0	0	0
「5:参加したくない」	0	0	0	0	0	0	0	0

2014年と2015年の「めいぐるみのとしょかんおとまり会」に続けて参加した保護者2名は、2回の調査ともに「1:参加したい」と回答していた。

4. 考察

4.1 Suzuki (2015) のプログラムの活動内容の評価

「めいぐるみのとしょかんおとまり会」全体に対する評価は、2回の活動を通じて高かった。評価の理由についての分析結果によれば、Suzuki (2015) のプログラムで重視したふりかえり（写真やスライドショー）を含めて、めいぐるみおとまり会の内容が評価されていた。また、少数ではあったが、保護者の読み聞かせの方法への理解の深まりなども高い評価の理由としてあげられていた。

「2:どちらかといえばよかった」という評価の理由としてあげられていた、おはなし会が始まるまでの時間に工夫があればよかったという点については、早く到着した子どもたちに先にめいぐるみと一緒にチェキで写真をとったり、絵本の紹介をするなど、対応を検討していく必要があると考えられる。また、「4:どちらかといえばよくなかった」という評価は3歳児の保護者からの回答であり、同じ年齢でも高い評価と厳しい評価が分かれた。

また、おはなし会の評価も全体的に高かった。2014年と2015年の「めいぐるみのとしょかんおとまり会」では、参加した子どもたちの年齢を考慮し、最終日のおはなし会の内容が異なっていたが、それぞれの内容でおは

なし会が高く評価されていた。したがって、申込者の年齢に応じて、おはなし会の構成内容を変更することが必要であると考えられる。回答数は多くはなかったが、おはなし会の時間が少し長かったという回答も見られていることから、参加者の子どもの年齢構成によって、おはなし会の長さを少し短くすることも含め、今後さらに検討していく必要がある。

今後の「めいぐるみのとしょかんおとまり会」への参加希望については、2回の活動を通じて、参加したい（「1:参加したい」「2:どちらかといえば参加したい」という回答が多く見られた。2014年と2015年の結果を比較すると、2015年のほうが今後の「めいぐるみのとしょかんおとまり会」への参加希望者の割合が高かった。しかし、2014年の調査で「3:どちらともいえない」という回答をした5歳児の2名の保護者はともに「めいぐるみのとしょかんおとまり会」を「1.よかった」と高く評価しており、1名はすぐに小学生になるものの、また参加したいと記述していた。したがって、2014年と2015年の今後の「めいぐるみのとしょかんおとまり会」への参加希望者の割合の違いは「めいぐるみのとしょかんおとまり会」への全体評価が大きく異なるためではなく、今後の参加希望について回答する際に、子どもの年齢の問題を考慮するかどうかということによる違いが反映された可能性が考えられる。具体的には、5-6歳時の保護者のうち、2015年の調査のように、今後、同様の活動に参加できる機会があれば参加したいと考えた場合には「1:参加したい」を選び、2014年の調査のように、参加者の年齢の規定を考慮した場合には、「3:どちらともいえ

ない」という回答になる場合があったためであると考えられる。これまでの「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」の実践例では、小学生までを対象に含んでいる例が多くあり、また、今回の調査の結果においても「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」を高く評価した理由の自由記述欄に「小学生になっても参加したい」という回答が見られていたことから、今後、対象年齢を広げることについても検討が必要であると考えられる。

4.2 Suzuki (2015) のプログラムの参加者への影響

「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」全体に対する評価の理由についての分析結果では、ぬいぐるみおとまり会の内容が高く評価されていたが、この他に、図書館へ来るきっかけや家庭での読み聞かせの促進、本への愛着の深まりなども高い評価の理由として挙げられていた。このように、「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」への参加によって、図書館や読み聞かせへの親しみが増す場合があることが示された。これは、従来より「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」に期待されていた効果である。公共図書館は幼児を対象として定期的におはなし会を開催しているが、今回の2回の実践では、定期的なおはなし会に参加していない子どもたちが実際に多く申込をしていた。「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」は、これまでに図書館を利用していなかったり、頻繁におはなし会に参加することがなかった子どもたちや保護者に、図書館や本の魅力を伝える貴重な機会を提供するものであると考えられる。

本研究では、プログラム全体の評価を中心に、どの要素が評価されるかを整理することができたと言える。しかし、ぬいぐるみの仕事の様子を見せたことや振り返りに対する評価は十分ではなく、今後、これらの点をより詳細に評価していくことが必要である。

また、本研究では、保護者が子どもの成長を実感したり、読み聞かせの方法への理解が深まったと実感している場合もあった。本研究は、Suzuki (2015) のプログラムのみを実施しているが、このプログラムが従来プログラムと比べて、子どもたちの図書館や本への関心をより高めることができるのか、子どもの発達により効果的な側面があるのかについては、今後、従来の「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」についても同様の方法で評価を行い、検討していく必要があると考えられる。本研究から示唆された、「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」に参加した子どもたちや保護者の図書館や読み聞かせへの積極的なかわり方や、読み聞かせへの理解が深まったことによる効果などを長期的な視点で検討して

いくことが望まれる。

5. 引用文献

- 市川純子 (2012). 「ぬいぐるみといっしょのおはなし会 & ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」を実施して：横浜市磯子図書館の事例から こどもの図書館, **59(7)**, 2-3.
- 国際子ども図書館 (2014). ぬいぐるみの図書館お泊まり会
<<http://www.kodomo.go.jp/info/child/2014/2014-060.html>> (参照日：2016.03.31)
- Romriell, D. (2011). When it rains stuffed animals: A lesson in handling the unexpected. *Children and Libraries: The Journal of the Association for Library Service to Children*, **9(1)**, 37-40.
- Stippich, S. (2012). Kick start your programming!: "The best of the best" library ideas for school-age children. *Children and Libraries: The Journal of the Association for Library Service to Children*, **10(3)**, 55-56.
- Suzuki, K. (2015). Practice and evaluation of a stuffed animal sleepover analysis of children's reactions to picture books. *Proceedings of INTED2015 Conference*. 2nd-4th March 2015, Madrid, Spain. ISBN: 978-84-606-5763-7, 7502-7508.
- 宝塚市立西図書館 (2014). ぬいぐるみのおとまり会
<<https://www.library.takarazuka.hyogo.jp/access/nishi/nuigurumi2014.html>> (参照日：2016.03.31)
- Thompson, S. B. (2012). Teens rise to the occasion. *Public Libraries*, **52(4)**, 28-29.

謝辞

「ぬいぐるみのとしょかんおとまり会」の実施へのご協力をいただいた牛久市立中央図書館、関係者、調査にご協力いただいた皆さまに心より感謝を申し上げます。

付記

本研究は JSPS 科研費 JP26540168 の助成を受けて実施されたものである。

(平成28年 3月31日 受付)

(平成28年 7月15日 採録)

付録

「めいぐるみのとしょかんおとまり会」全体に対する評価の質問項目

■今回の「めいぐるみのとしょかんおとまり会」に参加した感想等についてお尋ねします。

1. あてはまる数字を1つ選んで○をつけてください。

- | | | |
|-------------------|-----------------|--------------|
| 1. よかった | 2. どちらかといえばよかった | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえばよくなかった | 5. よくなかった | |

2. 1.のご回答の理由について、以下の枠内に自由にご記入ください（例：どこがよかった、どこがよくなかったなど、具体的にご記入ください）。

--